

大昔の話で、なおかつ個人的なことで大変恐縮ですが、自分は1984年に当時日本ではほとんど認識されていなかった tethered cord syndrome の研究をして博士論文を書き上げまして、それ以来、このマイナーな領域に興味をもち、そのまま守備範囲を広げて背骨の道を歩んできた医師なんです。ですから、今回の企画はとても身近で楽しみにしていました。

診療では、患児の外表面にある色素沈着など何らかの hallmark が先天性疾患の存在を示唆しており、そこから診断・治療を進めていくわけですが、本特集は、その中身を可視化する画像診断からの解説となっています。つまり、今回の堀先生の企画は今までの切り口とは違う観点からの脊椎脊髄先天性疾患に対するオーガナイゼーションであり、とても有意義なものであると感服しています。

各論まで拝見しますと、日頃の成人を中心とした日常診療でも遭遇するかもしれない数々の画像所見が紹介されています。偶発的なことももちろん多々あるでしょうが、このような先天性疾患は、医師側としては、鑑別診断の中で、変性疾患、感染性疾患などと同様に大項目の1つとしていつも挙げねばいけないものと考えた上で思いました。その意味からは、先天性脊椎脊髄疾患に興味があるか否かは別問題として、医者としての一丁目一番地として心得ておくべき知識であると感じました。考えてみれば、どんなに予防医学が進歩しても先天性疾患の発生確率は大きく変わることはないと考えられていますし、周産期医療の進歩を考えると、これをもっている新生児が減少するとも思えません。つまり、われわれはこの疾患群に今後も立ち向かっていかねばならないのです。

自分の生い立ちからかもしれませんが、本特集を機会に多くの医師が先天性疾患の診断治療に興味をもってくれることを心より望んでいます。最後になりますが、企画を担当された堀先生をはじめ、分担執筆をされた緒先生方にお礼申し上げます。

(谷 論)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素麿 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

山崎正志 (編集委員長)
金 彪 (副編集委員長)
亀山 隆 園生雅弘 高橋敏行
谷 論 筑田博隆 永島英樹
中村雅也 根尾昌志 原 政人
飛驒一利 堀 正明 松山幸弘

Vol. 34 No. 9
(2022 年 2 月 28 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価 (本体 2,500 円 + 税)

(配送料別)

年ぎめ予約購読料 33,300 円 + 税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2022,
Printed in Japan

JCOPY (出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。